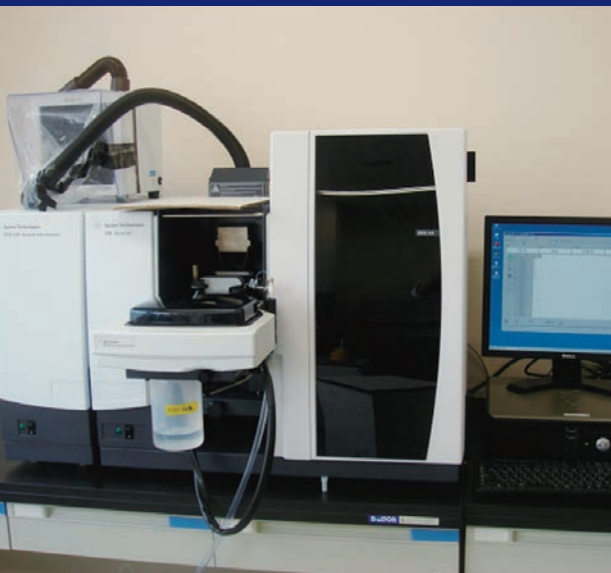


寄稿

歴代医療生命薬学 研究所長からの 寄稿



歴代医療生命薬学研究所長

研究力向上 を目指して

初代 研究所長

佐藤 雅彦



本学薬学部が創設10周年を迎えるとともに、4年制1学年、および6年制3学年を社会に送り出すことができ、たいへん喜ばしい限りです。

大学は教育機関であるとともに研究機関でもあることから、本学薬学部も教員は、専門知識を身につけた薬剤師を排出するための教育力に加えて、高度な最先端の研究力も求められています。これまで、本学薬学部は、新設学部であったため教育に重点を置いてきましたが、今後は、教育だけでなく大学の使命である研究にも力を注いでいかなければなりません。

このような背景のもと、「医療生命薬学研究所」は、6年制薬学部の完成年度を迎えた翌年の平成24年4月に本学薬学部附属機関として発足しました。私は、この医療生命薬学研究所の開設備に関わるとともに、初代所長を1年間(平成24年4月～25年3月)務めさせていただきました。平成25年4月からは、村木克彦教授(薬効解析学講座)が所長に就任し、本研究所の運営に尽力しています。現在、本研究所は、薬学部の研究拠点として、教員の研究力向上と研究支援を目的に大学院薬学研究科と連携をとりながら活動しています。本研究所がスタートして3年目を迎え、その間、研究所の研究助成を受けた教員から優れた研究成果(学術論文発表や特許申請など)も出始めました。今後も益々、研究所から斬新かつ独創的で優れた研究成果が生み出され、世界へ発信されていくものと確信しています。

本学薬学部は、本年度で創設10周年を迎えることができましたが、新設薬学部であることには変わりません。教育面と研究面をさらに充実させていき、本学薬学部の教育力と研究力を社会にアピールしていく必要があります。我々教員がそれぞれの研究領域ですばらしい研究成果を挙げていけば、本学薬学部は教育力と研究力の両輪を備えた盤石な体制が築かれるでしょう。今後もさらに、愛知学院大学薬学部が躍進していき、10年後、20年後には日本を代表する薬学部になっていることを願っています。